

環境と人にやさしい カーネーション栽培への取り組み

【背景・目的・成果】

環境にやさしい農業への取り組みとして、化学合成農薬のみに頼らず物理的防除、生物的防除も取り入れたIPM防除技術への関心が高まっています。

北淡路農業改良普及センターでは、花きの中でも栽培期間が長く、農薬散布回数が多いカーネーション栽培において天敵や被覆資材などを取り入れたIPM防除技術の実証に取り組みました。ハダニの発生を実害の生じる密度以下に抑えることができ、化学農薬散布にかかる労力も軽減されることから、栽培者にもやさしい防除技術として注目されています。

IPM(総合的病害虫・雑草管理)とは

Integrated=総合、統合
Pest=病害虫・雑草
Management=管理

- ・物理的防除: 防虫ネットによる害虫の進入阻止など
- ・生物的防除: 天敵を利用した害虫防除など
- ・化学的防除: 天敵にやさしい化学農薬の使用など

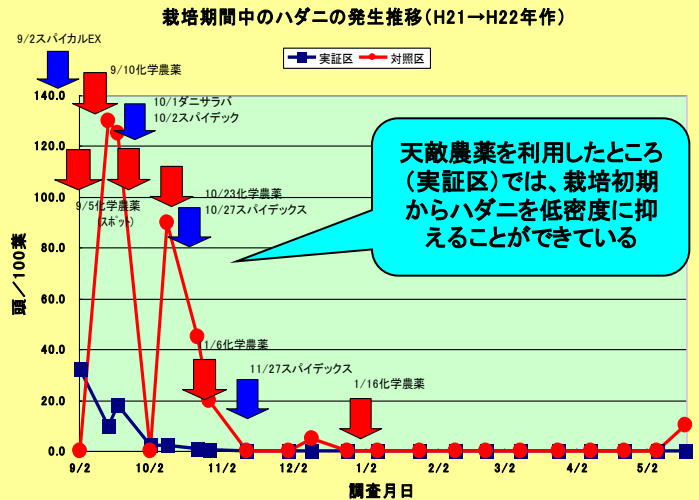
総合的な視点を持って、環境にも人にもやさしい病害虫防除を行うこと

被覆資材を施設側面に張り、
外からの害虫の進入を防ぐ

粘着トラップを施設
内に設置し、害虫を
捕殺する

ハダニによる葉先の吸汁被害

ハダニ(害虫)を捕食している
チリカブリダニ(天敵)



【技術の活用】天敵農薬散布(放飼)は、化学合成農薬散布の1/4程度の時間で行うことができ、省力防除効果も高い。天敵の種類、放飼のタイミング、化学合成農薬との併用などの検証を継続して行い、IPM防除体系の主要技術としての確立と普及を目指す。